

# 国史跡ニツ森貝塚について

ニツ森貝塚は、縄文時代の小川原湖の西岸の標高 30mの台地につくられ、今から約 5,500 年前から 4,000 年前までの 1,500 年間にわたって生活が営まれていた大きな貝塚を伴う遺跡です。

## ◆どの位大きいの？

遺跡の広さは、現在わかっている範囲だけで、約 35 万平方メートル（東京ドームの約 8 倍）で、貝塚としては県内最大級。三内丸山遺跡（青森市）と同じくらいの規模です。

## ◆史跡って何？

日本には 46 万ヶ所以上の「遺跡」があり、その中でも歴史上や学術上価値が高いものが国の「史跡」に指定されています。七戸町ではニツ森貝塚と七戸城跡の 2ヶ所が国史跡に指定されていますが、青森県内の史跡は 21ヶ所ですので、七戸町はとても貴重な地域の 1つです。

## ◆何がすごいの？

ニツ森貝塚のすごいところは、その大きさと出土品です。動物の骨を加工して作ったアクセサリーや生活用品がたくさん発見されています。なかでもシカの角で作られた、美しいクシなど数点は青森県の指定文化財になっています。

## ◆今年はいヌ年。縄文人といヌ。

ニツ森貝塚では、お墓の中から埋葬された犬が発見されています。縄文時代の頃から犬はパートナーとして大切にされて、人間と仲良く暮らしていたことがわかっています。

## ◆貝塚はタイムカプセル

貝塚に捨てられた動物や魚の骨は、貝殻に含まれているカルシウムに守られることで、腐ったり、ボロボロになったりすることがなく発見されています。貝塚が縄文時代と現在をつなぐタイムカプセルの役目をしているようですね。

## ◆縄文人はグルメ

縄文時代のニツ森貝塚は小川原湖に接していました。貝塚からは、小川原湖から採った貝類（ホタテやカキ、ヤマトシジミなど）や、魚の骨（スズキやフグなど）が発見されています。また、動物の骨（イノシシやシカなど）も発見されているので、食べ物にはとても恵まれた環境だったことがわかります。

## ◆世界遺産対策室フェイスブックに「いいね！」をお願いします。

世界遺産対策室では「七戸町教育委員会世界遺産対策室」のアカウントでフェイスブックのページを開設しています。ニツ森貝塚の情報などを発信していますので、ご覧になってみてください。

七戸町世界遺産対策室 フェイスブック で検索！